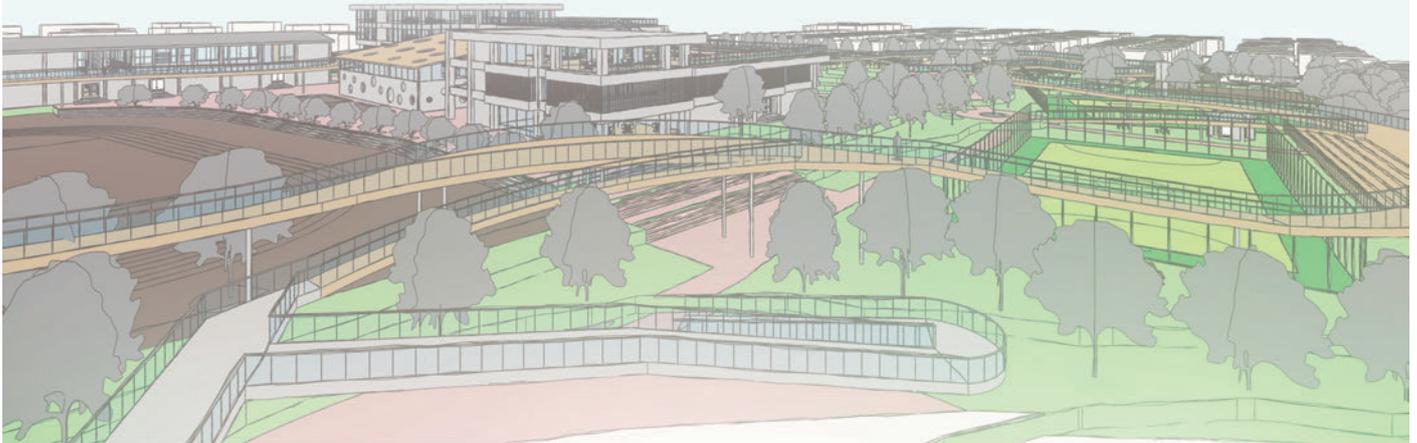


多世代を育む明日の学校



山口直哉
建築設計計画研究室



□コンセプト

テーマはスポーツを通しての世代間の交流やコミュニティを育む。敷地は小学校とそれに隣接する公園を対象に計画した。現在の小学校は子供たちの遊び場となっているだけでなく、スポーツ活動の拠点となっていることから地域との関わりが強く、地域にとって価値のある場所となっている。しかしその一方で少子高齢化により空き教室が増え、年に400以上もの学校が廃校となっている。そうした強みと弱みを生かし、元々小学校に付属する体育館やグラウンド、プールなどの地域の財産を活かし、地域のスポーツ拠点を計画した。

□プログラム

現在の校舎によって公園との関係が希薄になっているので公園とのつながりを作ることから考えた。そして、元々ある野球場や体育館、プールなどの施設の他に多目的広場、テニスコート、フットサルコートを加え、それらをつなぐ遊歩道を設置した。それに付随してクラブハウスなどを小学校の校舎をリノベーションして加えた。また、一階に小学校にある特別教室を配置し、市民と共有することで有効活用する。

□デザイン

現状の小学校を利用して設計をした。公園とのつながりを作るために校舎を減築と増築を行った。そして、敷地内に存在する色々な施設をめぐることを考え、曲線の遊歩道を作った。スポーツ施設はそのスポーツを行う人が使う専門的な場所となっている。そこでスポーツ施設の前の遊歩道に観覧できるスペースを設けた。そうすることで専門的な場所になってしまうスポーツ施設に一般の人たちを交わるようにしました。

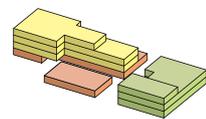
設計方針



小学校の校舎により南北が分断されており、公園との関係が希薄である。

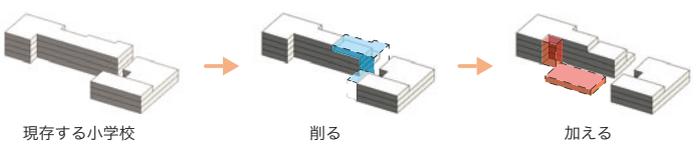
減築し南北の動線を作ることで公園との繋がりを作る。

用途配置



- 小学校・・・普通教室や職員室など通常の小学校の場
- 共有・・・小学校内にある特別教室といわれる図工室や音楽室など市民の人々と共有する場
- 市民・・・主に市民の人たちが使うクラブハウスやコミュニティ施設がある場

小学校校舎

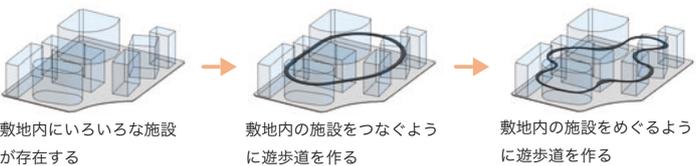


現存する小学校

削る

加える

遊歩道



敷地内にいる色々な施設が存在する

敷地内の施設をつなぐように遊歩道を作る

敷地内の施設をめぐるように遊歩道を作る

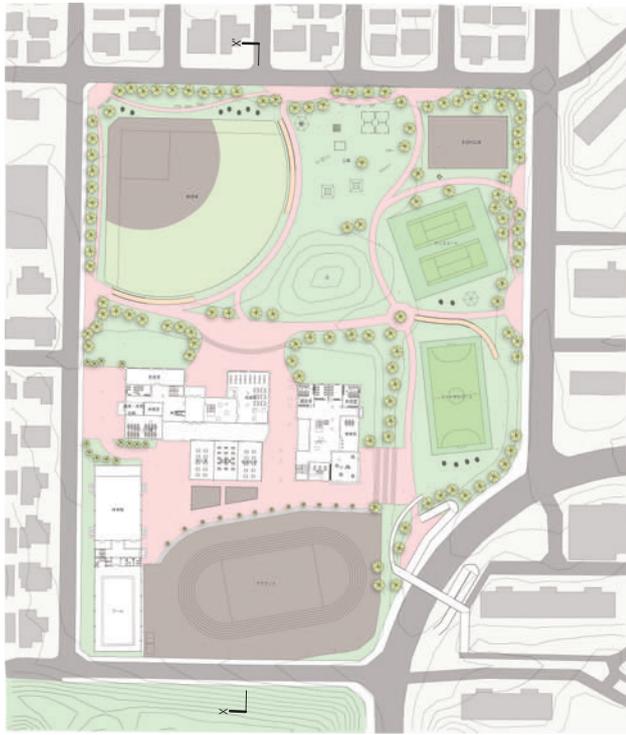


野球場
公園
多目的広場
体育館
プール

グラウンド

フットサルコート

テニスコート



1F 平面図



2F 平面図



3F 平面図



4F 平面図



X-X' 断面図



東立面図



市民との共有空間



教室



遊歩道の観覧席



遊歩道からの学校